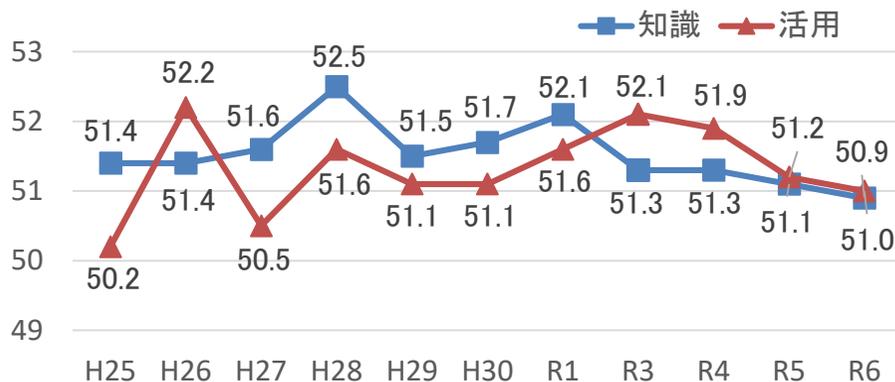


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
言葉の特徴や使い方に関する事項	69.4	66.3	67.5
情報の扱い方に関する事項	53.1	52.4	55.0
我が国の言語文化に関する事項	73.8	75.9	70.0
話すこと・聞くこと	65.2	64.9	63.0
書くこと	73.2	63.5	57.5
読むこと	60.5	61.1	60.8

○〔知識及び技能〕の2つの事項、〔思考力、判断力、表現力等〕の2つの領域で全国正答率を上回っている。

▲〔知識及び技能〕「我が国の言語文化に関する事項」、〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」で全国正答率を下回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	67.2	64.9	65.8
思考・判断・表現	65.5	63.0	60.7
主体的に学習に取り組む態度	68.2	61.7	58.0

○全ての観点において全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	63.5	63.3	64.2
短答	73.3	72.1	71.4
記述	68.6	61.2	56.7

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問6(2) 県正答率35.5% 無解答率20.6%

※出題の意図

情報と情報との関係について理解し、話の中心が明確になるよう話の構成を考えているかどうかを見るもの。

【問題の概要】

・山川さんの「スピーチの練習」を聞き、3段落の内容について、別の箇所に移した方がよいことを指摘するとともに、そこで話すとよい理由を具体的に書く問題。

◆ 指導のポイント

児童の実態として、以下の資質・能力に課題があることが考えられる。

- 情報と情報との関係について理解すること。
- 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。
- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

指導に当たっては…

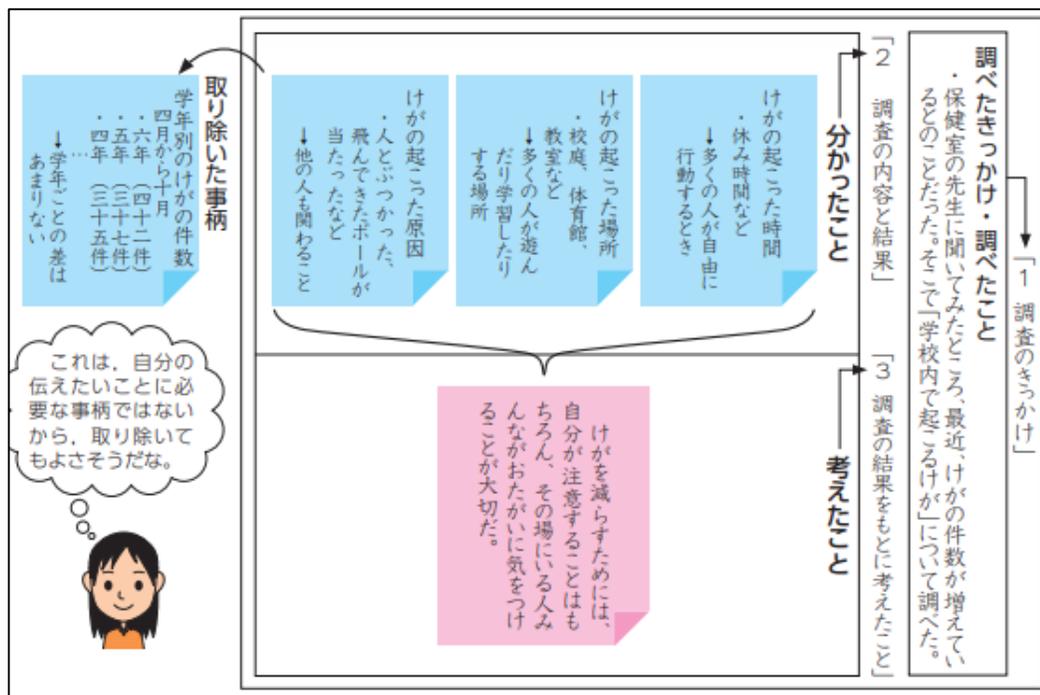
児童が自分で文章の組み立てを試行錯誤するような活動を取り入れることが考えられる。ワークシート等を活用する際には、テンプレートに情報を流し込めば、構成ができあがるようなもの(児童の試行錯誤する場面を必要としないもの)にならないような配慮が必要である。

★ 指導の具体例

★平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査
「授業アイデア例」を参照

https://www.nier.go.jp/jugyourei/h31/data/19idea-plang_01.pdf

単元名：学校生活で気になることを調べて、報告する文章を書こう
第二次6/10 必要な事柄を取捨選択しながら、自分の考えを明確にする。



自分の考えをまとめる際には、事柄の内容を関係付けて考えることができるようにすることや、選んだ事柄が自分の考えの理由や事例としてふさわしいかどうかを吟味することが大切です。

